

二頁だけの読書会

見開きからはじまる、知への旅

本のある見開き二頁をきっかけに、大阪大学の研究成果を参加者のみなさんと分かち合い、学び合うプログラムです。

Vol.3 「対話ってなんだろう —臨床哲学とサステイナビリティ・サイエンスの現場から考える—」

ビジネスやまちづくり、科学技術コミュニケーションの場などで「対話」という言葉を耳にする機会が増えていますか？ 大学の研究者が「対話」の場をつくることも少なくありません。おしゃべりや討論とは異なる「対話」とは、社会のなかでどのような意味と力を持つのでしょうか。今回は、研究の実践において多様な人々のつながりや対話を重視する臨床哲学とサステイナビリティ・サイエンスという2つの学問分野に着目し、2冊の本を取り上げる特別企画です。異なるアプローチで「対話」にかかる2人の研究者の対談から、「対話」がもたらす社会のすがたについて考えてみませんか？

ゲスト：松川絵里（大阪大学コミュニケーションデザインセンター 特任研究員）
原 圭史郎（大阪大学環境イノベーションデザインセンター 特任准教授）

日 時：2014年9月10日（水）18時～20時（開場17時30分）

場 所：りそな銀行梅田支店 りそなプライベートサロン Reラグゼ セミナールーム
(大阪府大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビルオフィスタワー24階)

参加費：無料

定員：先着順30名（要事前申込、定員になり次第受付〆切）

事前申込方法：8月18日（月）21時より、以下のウェブページにて先着順で申込を受け付けます。

<http://www.ura.osaka-u.ac.jp/2pages.html>

二頁だけの読書会 — 見開きからはじまる、知への旅

Vol.3 『対話ってなんだろう—臨床哲学とサステナビリティ・サイエンスの現場から考える—』

ゲスト：

松川 絵里（まつかわ・えり） 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任研究員

1979年生まれ、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任研究員。カフェフィロ代表。専門は臨床哲学。学生時より、喫茶店、地域のコミュニティースペース、育児サークル、病院、学校などで哲学対話を実践する。

原 圭史郎（はら・けいしろう） 大阪大学環境イノベーションデザインセンター 特任准教授

1975年生まれ、東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了。博士（環境学）。大阪大学環境イノベーションデザインセンター特任准教授。専門は都市環境工学、サステナビリティ・サイエンス。持続可能社会形成に向けて自治体等との連携など実践的研究を進めている。

本の紹介

『シリーズ臨床哲学2 哲学カフェのつくりかた』

鷺田清一監修、カフェフィロ編、大阪大学出版会、2014

ひとつのテーマについてその場に居合わせた人たちと話して、聴いて、考える、哲学カフェ。大阪大学臨床哲学研究室から生まれた団体が各地で展開する哲学カフェを振り返りながら、対話の場をひらくことの可能性を展望し、3・11後の社会で哲学にできることを問い合わせ直す。



『サステナビリティ・サイエンスを拓く—環境イノベーションへ向けて—』

原圭史郎・梅田靖編著、大阪大学環境イノベーションデザインセンター監修、大阪大学出版会、2011

「持続可能社会の構築」という命題に対応するために誕生したサステナビリティ・サイエンス。この新しい学術体系に対する理解を広げていくため、大阪大学で学際的に展開されてきた研究や得られた知見を基に、理文各分野の研究者が広く話題を提供している。



関連図書(上記以外)

[臨床哲学]

鷺田清一監修、本間直樹・中岡成文編『シリーズ臨床哲学 ドキュメント臨床哲学』大阪大学出版会、2010
鷺田清一著『「聴く」ことの力—臨床哲学試論』TBSブリタニカ、1999
マルク・ソーテ著『ソクラテスのカフェ』紀伊國屋書店、1996

[サステナビリティ・サイエンス]

梅田 靖 他 編著『都市・農村連携と低炭素社会のエコデザイン』技報堂出版、2011
原 圭史郎「都市のサステナビリティと環境」『公共政策研究』Vol.8、日本公共政策学会編、有斐閣、2008



主催：大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室

共催：大阪大学出版会、株式会社りそな銀行

協力：大阪大学クリエイティブユニット、大阪大学21世紀懐徳堂

問合せ先 大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室 info-ura@lserp.osaka-u.ac.jp